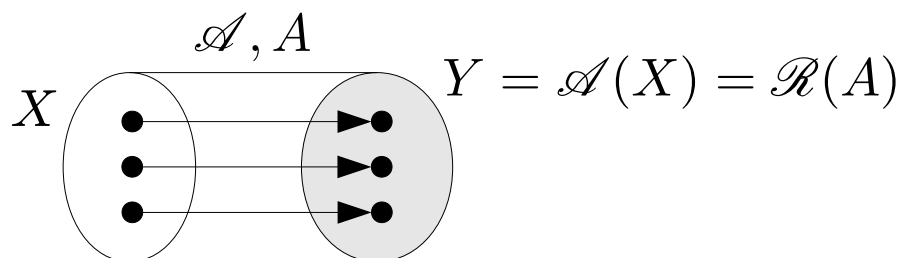


8. 逆行列

線形全単射

\mathcal{A} : 線形全単射, A : \mathcal{A} の行列表現

A は正方行列

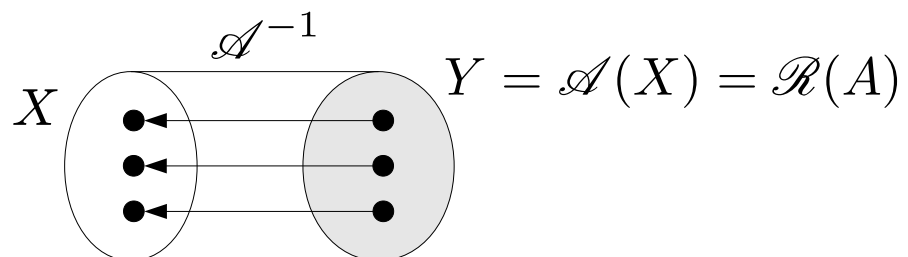


$\forall x \in X$ に対して, $y = Ax$ 満たす $y \in Y$ がただ一つ存在する

$\forall y \in Y$ に対して, $y = Ax$ を満たす $x \in X$ がただ一つ存在する



y を x に戻す逆写像 \mathcal{A}^{-1} が存在する



8. 逆行列

\mathcal{A}^{-1} : 線形全単射 \mathcal{A} の逆写像とする

\mathcal{A}^{-1} の行列表現 A^{-1} ?

$\forall x \in X$ に対して以下が成り立つ

$$y = Ax$$

$$x = A^{-1}y \quad (\text{まだ } A^{-1} \text{ がどんなものであるか不明であることに注意})$$



$$x = A^{-1}(Ax) = A^{-1}Ax$$



$$A^{-1}A = I \quad (A^{-1} \text{ は } A \text{ の逆行列})$$

\mathcal{A} が全単射のとき, その逆写像 \mathcal{A}^{-1} が存在する



A が最大階数のとき, その逆行列 A^{-1} が存在する

$$\det A \neq 0$$

8. 逆行列

行列 対 スカラー

x, y : スカラー, a : スカラー

y の値が与えられたとき, $y=ax$ を満たす x は次で与えられる

$$x = \frac{1}{a}y = a^{-1}y,$$

ただし $a \neq 0$ でなければならない

x, y : ベクトル, A : 行列

y の値が与えられたとき, $y=Ax$ を満たす x は次で与えられる

$$x = A^{-1}y$$

ただし $\det A \neq 0$ でなければならない

8. 逆行列

行列 対 スカラー

スカラー a は 1×1 行列とみなすことができ, その階数は次のように定められる

$$\text{rank } a (\leq 1) = \begin{cases} 1 & a \neq 0, a \text{ の逆数が存在する.} \\ & \text{与えられた } y \text{ に対して } y=ax \text{ を満たす } x \text{ を定めることができる} \\ 0 & a=0, a \text{ の逆数は存在しない} \\ & \text{与えられた } y \text{ に対して } y=ax \text{ を満たす } x \text{ を定めることができない} \end{cases}$$

$n \times n$ 行列 A の階数

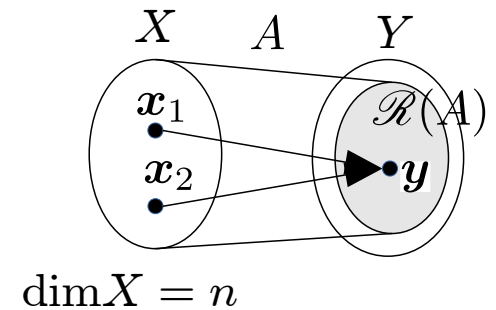
$$\text{rank } A (\leq n) = \begin{cases} n & \text{--- } \det A \neq 0, A \text{ の逆行列が存在する.} \\ n-1 & \text{与えられた } y \text{ に対して } y=Ax \text{ を満たす } x \text{ を定めることができる} \\ \vdots & \\ 1 & \text{--- } \det A = 0, A \text{ の逆行列が存在しない.} \\ 0 & \text{与えられた } y \text{ に対して } y=Ax \text{ を満たす } x \text{ を定めることができない} \end{cases}$$

rank A が $0, 1, \dots, n-1$ のとき, どのような違いがあるか?

8. 逆行列

$\text{rank } A = r \leq n - 1$ のときはどうなっている？

この場合、写像 \mathcal{A} は単射ではない



与えられた $y \in \mathcal{R}(A)$ に対して $y = Ax$ を満たす複数の x が存在する.
 x を一意に定めることはできない.

もう少し詳しく言うと、 x の一部は一意に定めることができるが、残りについては自由度がある

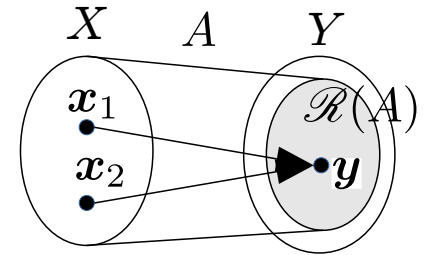
では、 x のうちのどの程度までを一意に定めることができるだろうか？

8. 逆行列

では, x のうちのどの程度までを一意に定めることができるだろうか?

唯一に定めることができない部分は, 右図では,
 $x_1 - x_2$ であり, これは $\mathcal{N}(A)$ に属している

つまり, x のうち A の零空間に属している部分
 は一意に定めることができない



$$\dim X = n$$

$y = Ax$ を満たす x を一つ見つけたとし, それを \bar{x} と表すことにする.
 すなわち $y = A\bar{x}$ がなりたつとする.

$\forall x_0 \in \mathcal{N}(A)$ に対して $x' = \bar{x} + x_0$ と定義すると, $y = Ax'$ も成り立つ

$$\because Ax' = A(\bar{x} + x_0) = A\bar{x} + Ax_0 = y + 0 = y$$

$$\dim \mathcal{N}(A) + \dim \mathcal{R}(A) = n = \dim X$$

y からは一意 に定めることが できない部分	y から一意に 定めることがで きる部分
--------------------------------	------------------------------

8. 逆行列

例：線形微分方程式

$$\frac{dx}{dt} + x = y$$

$x(t)$ から $y(t)$ への写像を \mathcal{A} とすると, これは線形写像. $\mathcal{A} = \left(\frac{d}{dt} + 1 \right)$, $\mathcal{A}x = y$

$$\left[\begin{aligned} \mathcal{A}(ax_1 + bx_2) &= \frac{d}{dt}(ax_1 + bx_2) + (ax_1 + bx_2) = \frac{d}{dt}(ax_1) + \frac{d}{dt}(bx_2) + ax_1 + bx_2 \\ &= a \frac{dx_1}{dt} + b \frac{dx_2}{dt} + ax_1 + bx_2 = a \left(\frac{dx_1}{dt} + x_1 \right) + \left(\frac{dx_2}{dt} + x_2 \right) = a\mathcal{A}x_1 + b\mathcal{A}x_2 \end{aligned} \right]$$

$\frac{dx}{dt} + x = y$ の一般解

$\frac{dx}{dt} + x = y$ を満たすある解 と $\frac{dx}{dt} + x = 0$ の一般解 の和
(特殊解, 特解)

$y = \mathcal{A}x$ を満たすある x
(\bar{x} に相当する)

$\mathcal{A}x = 0$ を満たすある x
($\mathcal{N}(\mathcal{A})$ に属する)

8. 逆行列

例

$$\begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 4 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 3 \\ 6 \end{bmatrix} \quad n = 2, r = \text{rank } A = 1 < 2, n - r = 1$$

$$\begin{matrix} A & \mathbf{x} & \mathbf{y} \end{matrix} \quad \left(-2 \cdot \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} 2 \\ 4 \end{bmatrix} = \mathbf{0}, 0 \cdot \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix} = \mathbf{0}, \det \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 4 \end{bmatrix} = 1 \cdot 4 - 2 \cdot 2 = 0, \det [1] = 1 \right)$$

$$\bar{\mathbf{x}} = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix} \text{ は } A\bar{\mathbf{x}} = \mathbf{y} \text{ を満たす}$$

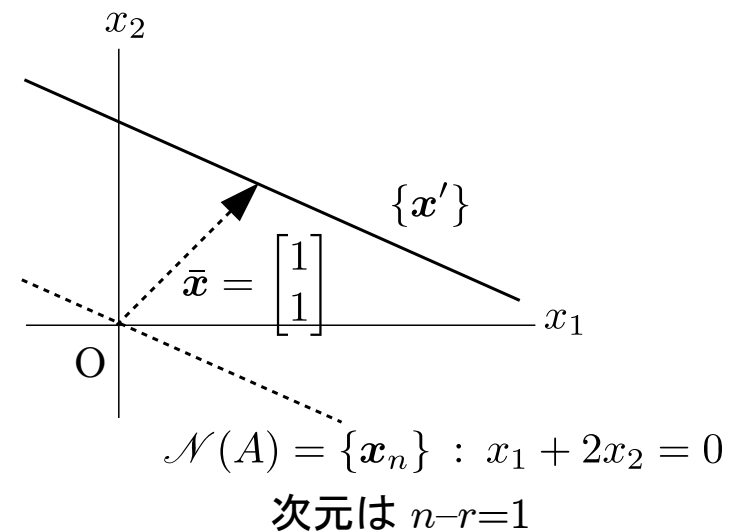
$x_1 + 2x_2 = 0$ が満たされるとき $A\mathbf{x} = \mathbf{0}$ がなりたつ

したがって $\forall \mathbf{x}_0 \in \mathcal{N}(A)$ は $\mathbf{x}_0 = \begin{bmatrix} -2\alpha \\ \alpha \end{bmatrix}$ と表される

ここで α は任意の実数である

$$\mathbf{x}' = \bar{\mathbf{x}} + \mathbf{x}_0 = \begin{bmatrix} 1 - 2\alpha \\ 1 + \alpha \end{bmatrix} \text{ と定義すると,}$$

$$\begin{aligned} A\mathbf{x}' &= \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 4 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 - 2\alpha \\ 1 + \alpha \end{bmatrix} \\ &= \begin{bmatrix} (1 - 2\alpha) + 2(1 + \alpha) \\ 2(1 - 2\alpha) + 4(1 + \alpha) \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 3 \\ 6 \end{bmatrix} = \mathbf{y}. \end{aligned}$$



8. 逆行列

$n \times n$ 行列 A が最大階数を持たない ($\text{rank } A < n$) とき, 与えられた y に対して $y = Ax$ を満たす x を一意に定めることはできない (無限個の x が存在する)

どうすれば一意に定めることができるだろうか?

線形微分方程式 $\frac{dx}{dt} + x = y$ では, 解を一意に定めるために初期条件を与える.

y の値以外の条件を与えることにしてみよう

8. 逆行列

例

$y = Ax$ に加えて, 別の条件として, $\|x\| = \sqrt{\sum_{i=1}^n x_i^2}$ を最小にする,
という条件を付加してみよう.

90ページの例では

$$\|x'\| = \left\| \begin{bmatrix} 1 - 2\alpha \\ 1 + \alpha \end{bmatrix} \right\| = \sqrt{(1 - 2\alpha)^2 + (1 + \alpha)^2} = \sqrt{5\alpha^2 - 2\alpha + 2} = \sqrt{5 \left(\alpha - \frac{1}{5} \right)^2 + \frac{9}{5}}$$

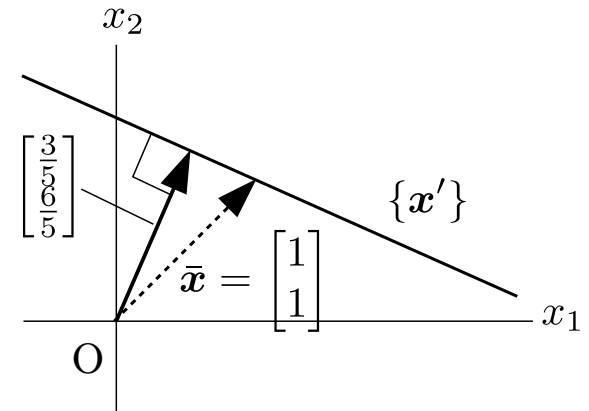
であった. これは

$$\alpha = \frac{1}{5}$$

のとき最小値をとり, x' の値を

$$x' = \begin{bmatrix} \frac{3}{5} \\ \frac{6}{5} \end{bmatrix}$$

と一意に定めることができる.



8. 逆行列

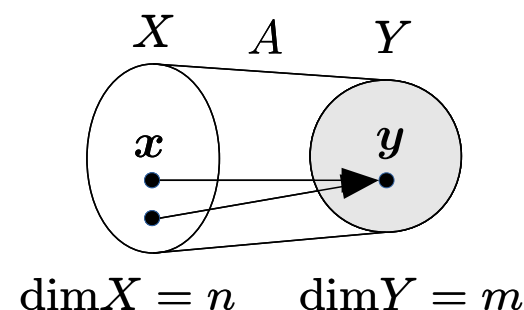
行列 A が正方行列ではないとき、逆行列に近いものを定義することができるだろうか？

非正方行列 $A \in \mathbb{R}^{m \times n}$, $m \neq n$ を考えてみよう.

8. 逆行列

A が最大行階数をもつと仮定しよう. すなわち $\text{rank} A = m < n$.

$$A = \begin{bmatrix} a_{11} & \cdots & \cdots & a_{1n} \\ \vdots & & & \vdots \\ a_{mn} & \cdots & \cdots & a_{mn} \end{bmatrix}$$



この行列で表現される写像は全射ではあるが単射ではない.

与えられた任意の $y \in Y$ に対して, $y = Ax$ となる x は無限個存在する.

x を一意に定めるには, 91, 92ページの議論と全く同様に, 付加的な条件が必要である.

8. 逆行列

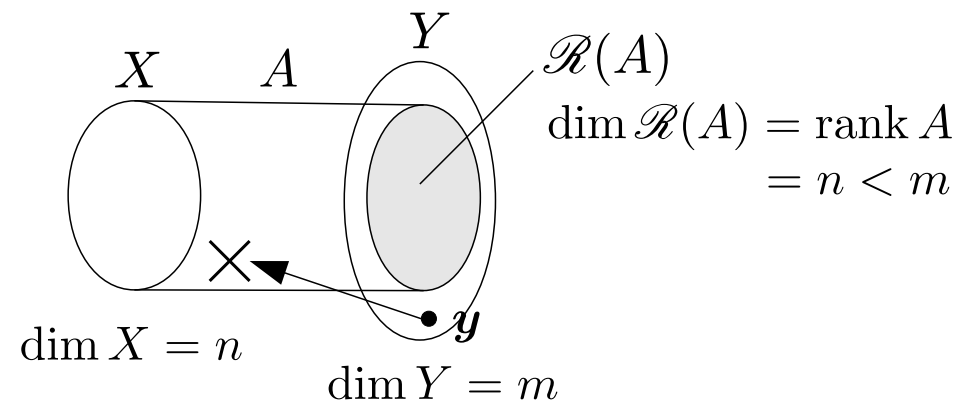
- A が最大列階数をもつと仮定しよう. すなわち $\text{rank} A = n < m$.

$$A = \begin{bmatrix} a_{11} & \cdots & a_{1n} \\ \vdots & & \vdots \\ \vdots & & \vdots \\ \vdots & & \vdots \\ a_{mn} & \cdots & a_{mn} \end{bmatrix}$$

A は行最大階数をもたないので, A で表現される写像は全射ではない

したがって, Y には属しているが $\mathcal{R}(A)$ には属していない y に対して, $y = Ax$ を満たす x は存在しない.

では, どのようなものならば存在するだろうか?



8. 逆行列

- A が列最大階数を持つとして, $y = Ax$ の関係からスタートしよう

$$y = Ax$$

両辺に左から A^T を掛けると次が得られる

$$A^T y = A^T Ax$$

A が最大列階数を持つとき, $A^T A$ の逆行列が存在するので,
(一般に $\text{rank} A = \text{rank} A^T A = \text{rank} A A^T$)

$$(A^T A)^{-1} A^T y = (A^T A)^{-1} A^T Ax = x$$

行列 $A^\dagger = (A^T A)^{-1} A^T$ は逆行列と似た性質を持っている:

$$A^\dagger A = (A^T A)^{-1} A^T A = I,$$

しかし

$$A A^\dagger = A (A^T A)^{-1} A^T \neq I.$$

A^\dagger は A の疑似逆行列と呼ばれる

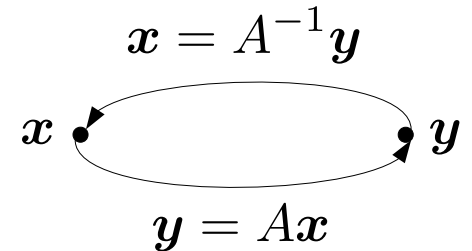
8. 逆行列

- 疑似逆行列

A は逆行列 A^{-1} を持つとしよう

x を $x = A^{-1}y$ によって定義すると, 次がなりたつ

$$Ax = A(A^{-1}y) = y.$$



A は逆行列 A^{-1} は持たないが疑似逆行列 A^{\dagger} は持つとしよう

\hat{x} を $\hat{x} = A^{\dagger}y = (A^T A)^{-1} A^T y$ によって定義する. このとき

$$\hat{y} = A\hat{x} = A(A^T A)^{-1} A^T y$$

は y と等しいだろうか? もし等しくないとするとき, \hat{y} と y の違いは何だろうか

答え:

$$\hat{y} \neq y,$$

であり, $y - \hat{y}$ は \hat{y} と直交している

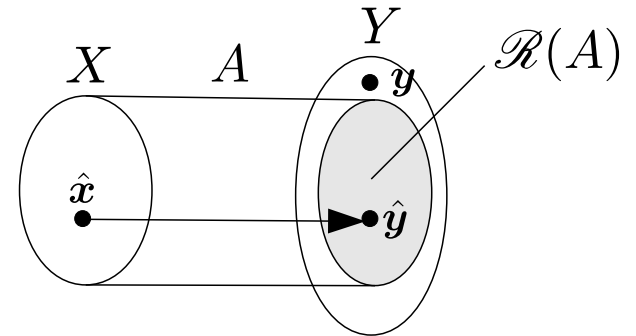
8. 逆行列

$\mathbf{y} - \hat{\mathbf{y}}$ と $\hat{\mathbf{y}}$ の内積

$$\begin{aligned}(\mathbf{y} - \hat{\mathbf{y}})^T \hat{\mathbf{y}} &= [\mathbf{y} - \{A(A^T A)^{-1} A^T \mathbf{y}\}]^T \{A(A^T A)^{-1} A^T \mathbf{y}\} \\&= [\{I - A(A^T A)^{-1} A^T\} \mathbf{y}]^T A(A^T A)^{-1} A^T \mathbf{y} \\&= \mathbf{y}^T \{I - A(A^T A)^{-1} A^T\}^T A(A^T A)^{-1} A^T \mathbf{y} \\&= \mathbf{y}^T \{I - A(A^T A)^{-1} A^T\} A(A^T A)^{-1} A^T \mathbf{y} \\&= \mathbf{y}^T \{A(A^T A)^{-1} A^T - A(A^T A)^{-1} A^T A(A^T A)^{-1} A^T\} \mathbf{y} \\&= \mathbf{y}^T \{A(A^T A)^{-1} A^T - A(A^T A)^{-1} A^T\} \mathbf{y} \\&= \mathbf{y}^T 0 \mathbf{y} \\&= 0\end{aligned}$$

8. 逆行列

$\hat{y} = A\hat{x} \in \mathcal{R}(A)$ ではあるが, $y \in \mathcal{R}(A)$ とは限らない



$y - \hat{y}$ is orthogonal to \hat{y} .

左の図で, 点 \hat{P} は点 P から $\mathcal{R}(A)$ に下した垂線の足

点 \hat{P} は $\mathcal{R}(A)$ 上で P に最も近い点

ベクトル \hat{y} は $\mathcal{R}(A)$ 上でベクトル y に最も近いベクトル (y の最良近似)

\hat{x} は次式を最小にする x である

$$(y - Ax)^T (y - Ax).$$

… 最小2乗法

